

# 2020年度 研究全体計画

研究推進委員会

## 1. 研究主題

仲間とともに豊かな学びを創造する子をめざして  
～話し合いを通して学びを深める工夫～

## 2. 研究主題について

本校では2018年度より研究主題を「仲間とともに豊かな学びを創造する子をめざして」、サブテーマを「話し合いを通して深める工夫」と設定し、授業の中で話し合いの場を大切にしながら、仲間とともに考えを伝え合う中で学びを深めていけるように研究を進めてきた。

研究主題にせまるために、最も大切にしたのは、「主体的・対話的な話し合い活動が必然的に生まれるような単元の構成、授業展開」の研究である。児童が「話したい!」「仲間の意見を聞きたい!」と思うためには、話し合い活動に必然性を感じる事が重要である。単元のつながりを意識させ、課題解決に向かうための方法として話し合い活動を位置づけることで、児童たちは、単元のゴールに向かう学びの過程で出合う課題について、主体的に話し合いながら解決を図ろうとする姿を見せた。

一方で、教師の意図した課題設定（ねらい）と、児童のやりたいこと・考えたいこと（ねがい）にズレが見られるようなこともあった。単元計画を練ったがために、どうしても教師がもっていきたい方へ引っ張ってしまう授業である。児童がどんな反応を示すかをあらかじめ予測したり、反応を見取って柔軟に展開を修正したりすることが、教師に求められる課題点として浮かび上がった。

また、話し合い方を身につけるための指導も、さらに充実させる必要があることも明らかになった。仲間の意見に耳を傾け、反応する聞き手の力。（相槌をうつ、拍手を送る、首を傾げる、反論する など）一文を短くして端的に意見を述べたり、相手の反応を見ながら話したり、聞き手を巻き込んだりする話し手の力。そういった児童同士がつながるための素地があってこそ、話し合い活動は成熟し、学びは深まる。

加えて、日頃の学級づくりの重要性にも改めて気づかされた。本校の児童は「間違えたくない」「恥ずかしい」という気持ちを強く抱く傾向にあり、昨年度実施の児童アンケートの記述欄にはそれが顕著に見られた。この現状を打破するには、間違えてもいい雰囲気学級内に満ちていることが不可欠である。ミスを笑わない空気、励まし合う空気、その中でこそ児童の受容感が高まり、積極的に話し合う原動力になる。間違いをむしろ大切にする教師の姿勢を忘れず、授業づくりと学級づくりが一体であることを意識して、日々の学級指導に臨むことが求められている。

それらの実態をふまえながら、今年度も同じ研究主題で取り組んでいく。児童たちの「話したい!」「聞きたい!」があふれる、主体的・対話的で深い学びの場が大いに保障された授業づくりができるように、研究を進めていきたい。

研究にかかわる言葉について、次のように考えている。

### 仲間とともに

課題や問題を一人で追究し、解決することには限界がある。自分の考えを仲間伝えたり、仲間の考えを聞いたりするなどの交流をし合うことで、課題を解決する方法を見つけたり、新たな考えが生まれたりする。また、仲間と同じ意見ということで、自分の考えに自信をもつこともできるだろう。ただし、仲間とともに課題に向かうとき、自分の考えを一方的に主張するのでは、学び合いにはならない。そこでは、他者理解や、相手を尊重しつつ自分の考えを伝えて認めてもらうことが大切になる。

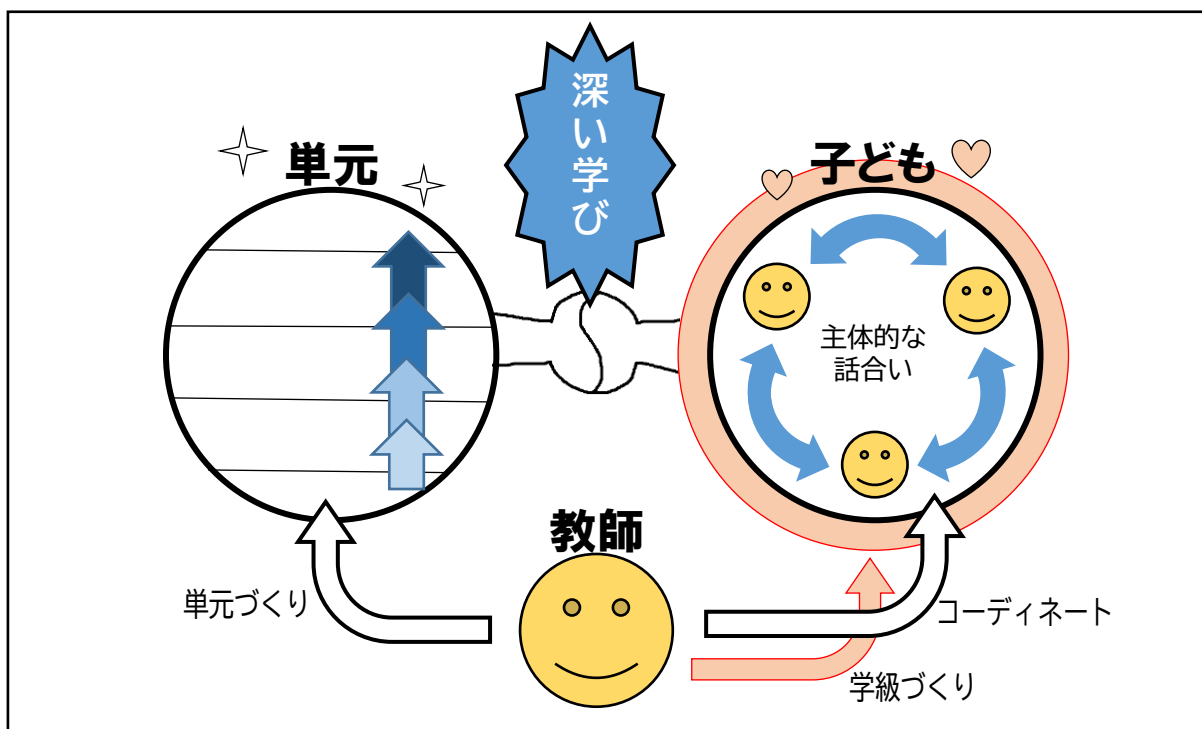
### 豊かな学びを創造する

自分の考えを仲間と伝え合うことで得られた結論は、自分の初めの考えより深まっていたり、新たな考えになっていたりする。そして、さまざまな考え方や今までとは違った考えを知り、多面的なもの見方や考え方ができるようになる。「豊かな学び」とは、仲間とともに考えた結論が、これまでの自分の考えより深まっていたり、役に立つという有用性を感じられたりする学びである。

### 話し合いを通して学びを深める

一人一人が自分の考えをもっても、それを伝えなければ互いに新しい考えに出会うこともなく、学びを深めることはできない。そこで、授業において話し合いの場を大切にし、自分の考えを仲間伝えたり、仲間の考えを聞いたりするように促していく。この交流の中で、自分の考えと比べたり、新しい考えに気づいたりすることで、自分の考えを再構築し、学びを深めていく。ここで重要なのは、「児童間でのやりとり」を大切にすることである。教師主導の授業展開や意見の発表会ではなく、お互いが「話したい!」「聞きたい!」という思いをもって意見を練り合える場を十分に保障したい。そのために教師は、話し合いにおけるコーディネーターとしての役割を担う。

## 3. 研究主題のモデル図



## 4. 研究の重点

- ①おもしろい単元づくり・・・・・・・・・・【教材=子ども】をつなげる
- ②話合いを通して学びを深める手だて・・・・・・・・【子ども=子ども】をつなげる
- +③間違いをおそれず話せる学級づくり・・・・・・・・【子ども=子ども】をささえる

### ①おもしろい単元づくり・・・・・・・・・・【教材=子ども】をつなげる

主体的・対話的な話合い活動が生まれる授業とは、いったいどんな授業か。それは、児童にとって「おもしろい」授業であることに他ならない。単元（または本時）の課題が知的好奇心をくすぐられるものであったら、思わず考えたくなったり、友だちと相談したくなったりする。「話したい！」「聞きたい！」といった児童の願いが生まれるような単元構成や授業展開を研究する。話合いを「手段」として設定し、教科としての目標を果たせるように、仕掛けを考えていく。

(例) 単元を貫いた課題意識や構成の工夫

興味をひきつける導入、または単元のゴール設定

児童の中から「ズレ」や「問い」を生み出す課題設定の工夫

### ②話合いを通して、学びを深める手だて・・・・・・・・【子ども=子ども】をつなげる

児童たちが自分の考えをもち、それを伝えたり仲間の考えを聞いたりしながら交流し、学びを深めていけるような手だてについて研究する。

(例) 考えのもち方（一人学びの書かせ方、前時までの既習事項の示し方、選択肢の与え方 など）

考えの出し方（グルーピングの工夫、ホワイトボードやふせん等の教具の活用 など）

考えの深め方（学びを深める教師の<sup>ては</sup>出場、キーとなる意見の取り上げ方、ゆさぶり方 など）

また、話合いで学びを深めるには、多様な意見を引き出す課題設定が欠かせない。一人学びにおいて様々な考え方が生まれ、そして話合い活動の中でそれが吟味されていくような単元構成や授業展開になるように、研究する。

(例) 単元目標、本時のめあて、主発問の言葉、意見が整理される板書の工夫 など

### +③間違いをおそれず話せる学級づくり・・・・・・・・【子ども=子ども】をささえる

どんなに魅力あふれる授業を作っても、学級が冷たく、間違えにくい雰囲気だと、主体的・対話的な話合い活動が生まれる余地はない。誰もが安心して思いを発信できるような、あたたかい学級づくりが不可欠である。様々な活動の中で、肯定的な関わり合いを大事にする。また、日ごろのスピーチ活動などを通じて意見を伝える場に慣れさせるとともに、聞き手の力も育てる。好ましい関わりをしている児童を積極的に取り上げ、学級全体へと波及させていく。

(例) 肯定的な関わり合い活動、スピーチ活動

教師の肯定的フィードバックやフォロー など

## 5. 授業の流れモデル図

